

持続可能な地域社会の創り手を育成するキャリア教育

社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力（基礎的・汎用的能力）

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

自分にとっての学ぶ意義(各教科等における「なりたい自分」)の明確化

自己マネジメント力(RVPDCA)を生かした自分で決める学びの推進

【実践1】

学びの基盤となる学級づくり

- ◎「心理的安全性」のある学級づくり
 - ・ 集団の規範と目的づくり
 - ・ 教師と児童生徒の関係づくり
 - ・ 各種調査結果から個に応じた指導
 - ・ 間違いが生かされ、安心して失敗でき、多様性が尊重される。
- 「価値付け、つなぎ、語らせる」
 - ・ 育てたい資質・能力をもとに児童生徒の言動を価値付ける
 - ・ 価値付けたエピソードをつなぐ
 - ・ よさや成長を実感させ、次の目標設定に生かす

【実践2】

自己マネジメント力（自分で決めて学び続ける力）の育成

- ◎探究的な学習の推進
 - ・ 見通し（自分なりの目標設定）振り返りを重視した学習過程
 - ・ 課題解決型の体験活動
 - ・ 棚倉の歴史や文化のよさを探究
- 自ら学ぶ意欲と肯定感の育成
 - ・ 発達段階に応じた学習計画
 - ・ 家庭学習計画表からスケジュール手帳等のツールの活用
 - ・ キャリアパスポートの活用や対話的な関わり、振り返りによる自己肯定感の育成

【実践3】

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

- ◎分かる・できる授業の実践
 - ・ 「授業スタンダード」「家庭学習スタンダード」の活用
 - ・ 板書計画に基づく授業づくり
 - ・ 授業と家庭学習の連動
- 個別最適な学びと協働的な学び
 - ・ 指導の個別化の工夫
 - ・ 学習の個性化への配慮
 - ・ 対話的な学びの推進
 - ・ 特別支援教育の充実
 - ・ 学校内外における学びの場
- 情報活用能力を伸ばすICT活用
 - ・ ICTを適切に活用した学習活動
 - ・ 情報モラル教育の充実

デジタル学習基盤の効果的な活用、情報活用能力の向上

※ 「心理的安全性 (psychological safety)」とは、エドモンドソンが1999年に提唱した心理学用語で、「みんなが気兼ねなく自分の意見を述べることができ、自分らしくいられる文化」のことです。